

第9回平和首長会議総会

閉会式

2017年8月10日（水）12：15～12：45

長崎大学 中部講堂

アトラクション

長崎大学教育学部附属小学校合唱団

参加者代表挨拶

エディ・ニューマン（マンチェスター市ロードメイヤー・イギリス）

閉会挨拶

田上 富久（平和首長会議副会長、長崎市長）

松井 一實（平和首長会議会長、広島市長）





閉会式

(1) アトラクション 長崎大学教育学部附属小学校合唱団

司会：皆さま、大変長らくお待たせいたしました。これより閉会式に移らせていただきます。閉会式に先立ちまして、長崎大学教育学部附属小学校合唱団によります歌を皆さまにお楽しみいただきます。

—合唱—

(児童 1)：皆さま、こんにちは。今、歌いました曲は「千羽鶴」です。毎年、8月9日に平和式典で歌われる曲です。毎月9日、原爆が投下された11時2分には市内放送で音楽が流れます。折り鶴一つ一つの色には平和への祈りが込められており、これからも大切に歌い続けていきたい曲です。

(児童 2)：次に歌います曲は「さあ、握手しよう」です。皆さまももっと心と体の距離を近づけたいと思います。今から歌を歌いながら、私たちが折った鶴をプレゼントいたしますので、受け取ってください。

(児童 1・2)：さあ、握手しよう！ Let's shake hands!

—合唱—

司会：ありがとうございました。長崎大学教育学部附属小学校合唱団の皆さまでした。どうぞ大きな拍手でお送りください。素晴らしい歌声で、閉会式のオープニングを飾っていただきました。

(2) 参加者代表挨拶

司会：それでは、ただ今より第9回平和首長会議総会閉会式を開式いたします。初めに、参加者を代表して、平和首長会議副会長、マンチェスター市ロードメイヤー、エディ・ニューマン様からご挨拶を頂きます。

エディ・ニューマン (マンチェスター市ロードメイヤー・イギリス)：松井市長、田上市長、小溝事務総長、そして、市長の皆さま、ご参会の皆さま、今、子どもたちの素晴らしい歌を拝聴しました。「子どもたちこそ、われわれの未来だ」という言葉は、われわれの共通の言葉だと思います。彼らが長崎のこれからを背負ってくださるのだと思います。

本日、この美しい都市、長崎において、第9回平和首長会議総会の閉会式で一言申し上げる機会を頂きまして、大変うれしく思っています。私はこの会議の全てのセッションを拝聴しました。そして、そこでは平和と核兵器のない世界実現に向けた、われわれの大きな組織の持つエネルギー、決意、団結を目の当たりにすることができました。

私は初めて日本に参りました。そして、今回のこの会議が素晴らしい構成であったと考えました。マンチェスターを代表しまして広島・長崎の平和祈念式典にも参加でき、光栄でした。1945年8月6日、8月9日に起こった惨劇で亡くなられた人々を追悼する、誠に尊敬に値する厳かな式典でした。また、いまだ後障害に苦しむ方々がたくさんいらっしゃるということを忘れてはなりません。そして、異なったやり方をわれわれは求めていかなければなりません。平和的な手段、協力、連帯、敬愛、理解といった、今までと違う平和的な手段で求めていかなければならないのです。だからこそ、私は政治の世界に入り、だからこそ、皆さま方も、ここに集っているのではありませんか。

37年前、1980年11月、マンチェスターは自治体として初めて非核都市宣言をしました。私は若い市議でした。それからその政策を実行するのに邁進してきました。

今年5月22日、夜の10時30分、何千人もの子どもたちや親たちが興奮冷めやらぬ中マンチェスター・アリーナから出てきました。アメリカのシンガーのアリアナ・グランデさんのコンサートを見に来ていたのです。そして、直後、自爆テロが起きました。アリーナの入り口の、鉄道の駅と結ばれた場所です。多くの人々が重傷を負いました。悲しいことに若い人、子どもを含めて22人の方々が亡くなりました。おぞましいテロでした。私の都市は、他の世界の都市もそうだと思うのですが、そのような出来事を経験してきました。しかし、今回のことは震撼しました。

広島と長崎に来てから、私は被爆者の方々の魂に触れることができました。その連帯、和解、そして、互いの慈しみの心、この精神がマンチェスターにもあるのです。そして、特におぞましいテロが起こった直後、その翌日、マンチェスターの市庁舎の前で、私は警備の先頭に立ちました。何万人の人々が集まりました。そして、私は同じような形の警備を続けました。そこではまちの連結、愛、悲嘆、そして不信の念が共通項となって、お互いの思いを引き付け、決してわれわれの都市は分断されないのだという決意を新たにしました。

マンチェスターは、そもそもいろいろな民族が住んでいる多様なまちです。寛容のまちです。そして、お互いに敬愛をするということこそがわれわれのテーマなのです。真に平和を求める市なのです。その攻撃の後、何日も何週間もそのことが如実に示された連帯のまちでした。

平和首長会議を通じて、マンチェスターはもっと平和な、核兵器のない世界をつくりたいと邁進してまいりました。そして、今までにないほどお互いの敬愛の念、協力、連帯、尊敬の念、これを強力に推し進めていきたいと考えています。そして、そのチャレンジの中で協働していきたいと思えます。平和首長会議こそが、われわれが代表するコミュニティの平和のかがり火です。今年は特に核兵器禁止条約採択に関して、とても大きな役割を果たしました。われわれのチャレンジは、さらにこれを進めていき、そして、核兵器国、例えば私の英国のような国に対して、多国間の核軍縮政策を実行してくれるように要請するということです。

長崎の実行委員会の皆さま方、大変だったと思います。われわれを結集させていただきまして、ありがとうございます。広島市長、長崎市長、そして、平和首長会議の事務総長、さらに事務局の方々、理事都市の方々、素晴らしいリーダーシップを発揮していただき、ありがとうございました。

今採択された「ナガサキアピール」こそが、世界を変革する基となると考えています。われわれは平和を信奉しています。一緒になって、連帯の精神の下に、平和首長会議の魂こそ長崎の心であり、



閉会式

広島的心であるということを中心に刻みましょう。そして、それはマンチェスターの心でもあり、ここに来ている都市の代表の心でもあるということを考えましょう。被爆者の方々の魂を解き放ち、その心を届けようではありませんか。

代表として、皆さまにぜひお願いしたいのですが、都市に帰られたら、家族、都市、そして、国にこのメッセージをお持ち帰りください。ありがとうございました。

司会：エディ・ニューマン様、どうもありがとうございました。

(3) 閉会挨拶

司会：続きまして、開催地の長崎市長であります平和首長会議副会長、田上富久が閉会のご挨拶を申し上げます。

田上 富久（長崎市長）：第9回平和首長会議総会もいよいよフィナーレの時間を迎えました。そのお話の前に、先ほどマンチェスターのエディ・ニューマン・ロードメイヤーからお話がありました、子どもたちのことについて、私も同じ思いを述べたいと思います。

昨日の平和祈念式典にも子どもたちが登場して歌を歌ってくれました。今日はこの場にも子どもたちが登場して、歌を歌ってくれました。非常に悲しい話、つらい話、あるいは重いテーマの話をする中で、私たちの心が波立ったときに、子どもたちが歌声でその思いを、波を沈めてくれて、気持ちを浄化させてくれるような気がします。子どもたちには特別な力があるということを感じながら、私もニューマン市長と同じ気持ちで歌を聞かせていただきました。

さて、今回の4日間にわたる平和首長会議の総会は、非常に中身のある、いい総会になったと思います。参加された全ての都市の皆さま、モデレーターを務めていただいた3名の皆さま、ご協力いただいたさまざまな団体の皆さま、スタッフの皆さま、全ての皆さまに心から感謝を申し上げます。

特に、その中で最後に特別決議を採択することができました。核兵器禁止条約は、核兵器を法的に禁止するという平和首長会議がずっと目指してきた方向、その重ねてきたさまざまな努力の一つの成果でもあります。もちろん被爆者の皆さまをはじめ、多くの皆さんと一緒に取り組んできた成果です。

この成果を今、確認することで、私たちはこの方向が間違っていなかったということを確認、次のハードルに向かって、またチャレンジをしなければなりません。その意味で、このタイミングで開催された総会で特別決議を採択できたことは非常に大きな成果であったと思います。

二つ目に、「ナガサキアピール」を採択できたことです。平和首長会議は今、7400以上の都市が加盟する非常に大きなネットワークになっています。そして、このネットワークが広がる中で、私たちは新しい行動の形を模索してきました。その中で、今回、核兵器の廃絶という共通の、そして揺るぎないテーマに加えて、新たに平和文化の創造、平和教育に取り組むというテーマを「ナガサキアピール」の中で取り上げることができました。もう一つ、エリアごとのさまざまな課題にも取り組むというこ

とも「ナガサキアピール」の中に盛り込むことができました。

これは、これから平和首長会議が進むべき方向を示唆するものだと思います。これから2020年を超えて、さらにどういうビジョンを描くのか、皆さんと議論を進めていくこととなりますが、その中でもこの「ナガサキアピール」は一つの方向性を示唆するものになると思います。

三つ目に、2017年から2020年までの行動計画を採択することができました。これも非常に内容のあるものになりました。そして、何よりも私たちがこうして連携をし、そして、諦めないことで小さな声を大きな声にしていく、実は小さな声が一番大きな声だったのだということを形にしていく、そのことをこの行動計画の中で具体的に実践していく決意を示すことができました。そのプログラムも用意することができました。

これから皆さんと共に実践の3年間がスタートします。これからの3年間は特に重要です。2020ビジョンを掲げながら行動してきたこの平和首長会議が、2020年以降、どういうビジョンを描くのか、皆さんとさまざまな議論をする、とても大切な時期になります。今回、こうして顔を合わせて皆さんとお話しし、議論をして、友情を深めることで、この平和首長会議のネットワークはますます強固なものになったと思います。これからも時々こうしてお会いして、友情を深めながら、さまざまな議論をし、そして、一人一人の小さな声を大きくしていく活動を皆さんと共に続けていきたいと思っています。

今回の第9回平和首長会議総会は大きな成果を上げることができました。本当に皆さんと一緒にこのチームで活動できることを誇りに思います。これからも皆さんと共に、自信を持って一步一步歩んでいきたいと思います。このことを呼び掛けさせていただいて、そして、重ねて、この総会を成功させていただいた全ての皆さまに感謝して、私からの、開催地の市長としてのお礼のご挨拶にさせていただきます。皆さま、本当にありがとうございました。

司会:最後に、主催者を代表しまして、平和首長会議会長の広島市長、松井一實がご挨拶を申し上げます。

松井 一實 (広島市長): 閉会に当たりまして、私からもご挨拶させていただこうと思います。平和首長会議の会長として、簡単に締めくくりたいと思います。

先ほど、このたびの総会の集大成として「ナガサキアピール」が採択されました。一昨日からの会議を無事に終えることができました。これもひとえに加盟都市をはじめ、各国政府、NGOからの参加者の皆さん、そして、会議を支えていただいたスタッフ、ボランティアの皆さんのお力添えがあったからこそであります。心から御礼を申し上げます。

このたびの総会では、平和首長会議として2020年までの目標年次を策定した新しい取り組み、新たな行動計画をつくりました。それと「ナガサキアピール」も採択しました。今後は、今度策定した新たな行動計画に沿って核兵器禁止条約の全ての国による早期の締結を目指すとともに、それぞれの地域が抱えております多様な問題・課題の解決に向けた取り組みを皆さまと一緒に進めていくことになろうかと思っています。

言うまでもなく、われわれの活動は、一人でも多くの市民の方の参加を得て、その上で国連、各国政府、さらにはNGOをはじめとする幅広い方々との連携が不可欠です。引き続き、皆さまのご理解とご協力



閉会式

をお願い申し上げます。

次回の総会に関しましては、3年後、2020年、広島で開催することになっております。そのときまでに核兵器のない平和な世界に向けた確固たる一歩が進められるように、共に力を尽くしていきましょう。皆さま、本当にありがとうございました。改めて皆さまのご協力に感謝申し上げ、閉会のご挨拶とさせていただきます。また、お会いしましょう。ありがとうございました。

(4) 閉会

アトラクション 長崎大学教育学部附属小学校合唱団

司会：それでは、平和首長会議総会のフィナーレといたしまして、合唱団の児童たちと首長の皆さまで「小さな世界」を歌って締めくくりたいと思います。それでは、首長の皆さまはどうぞステージの方にお進みください。

—合唱—

司会：ありがとうございます。さて、3年後の2020年には広島市で第10回平和首長会議総会が開催されます。そこで長崎大学附属小学校の皆さんが折った千羽鶴を、長崎が未来に向けて世界恒久平和を願うメッセージとして広島市に送りたいと思います。

それでは、長崎大学教育学部附属小学校の合唱団の皆さん、広島市長に千羽鶴をお渡しください。会場の皆さま、世界恒久平和を願って、どうぞいま一度大きな拍手をお願いいたします。

それでは、これをもちまして、第9回平和首長会議総会を終了させていただきます。皆さま方、4日間、本当にありがとうございました。